

新人弁護士の由無し事

会員 大瀧 靖峰



プロフィール

私は、東京大学の法学部を卒業した後、専修大学の法科大学院を修了し、運良く新司法試験に合格することができた。新司法試験の選択科目は、労働法だった。

司法修習では、法曹実務の内部を見ることができた。本物の法曹の本音の話も聞けて、とても勉強になった。修習で学んだ中で1番印象に残っていることは、指導していただいた先生の受け売りではあるが、次のようなことだ。すなわち、刑事弁護を阻む要因は、①的確すぎる見通し、②豊富すぎる判例知識、③素朴すぎる正義感、④高すぎる自尊心の4つだそう。これをやっても量刑には影響しないだろうという見通しや、判例法理から考えるとやっても無駄だという思いとか、この主張は恥ずかしいなどの考えが、刑事弁護を阻むとのことだった。弁護士になってから、この意味がだんだんと分かってきた。

趣味

弁護士の仕事は、精神的に辛いことが多いと思うので、良い息抜き的手段を自分で確立しておく必要があるように思う。特定の趣味を持つのが良いのではないかと考えている。

私は、体を動かすことが好きなので、スポーツをやりたい。今後は、特に、水泳、マラソン、自転車に力を入れようと思っている。時間が取れば、トライアスロンと空手をやってみたい。将来的には、ゴルフもやってみたい。「やっぱり弁護士はゴルフでしょ。」と思う。

と書きつつ、なんだか温泉にも入りたくなってきた。

一人暮らし

実は、弁護士になってから、人生初めての一人暮らし

しを始めた。

当たり前のことであるが、自分がやらないと、どんどん洗濯物が溜まっていくので、溜めないうちに洗濯する方針でいる。ただ、だんだんと面倒臭さを感じてきた。

自炊は全くやっていない。意識して野菜を食べるようにしないと、野菜不足に陥りそうである。

弁護士業

1月から弁護士として勤務を始めた。なんだか最初は緊張の連続であったが、事務所の先輩方からご指導をいただきながら、なんとかやっている。今はまだ受け持っている事件数は多くなりつつある程度であるが、将来的にはかなり多くなると思うと、また緊張してくる。

困っている人を手伝って、それが収入にもなるのだから、とてもやりがいを感じる。ただ、それだけに、自分をしっかりと律していかないといけないことも感じている。依頼者の運命まで左右する可能性があると思うといい加減なことはできない。

弁護士の無限にも近い可能性を実現していけるように、早く実力を身に付けたい。

感想

弁護士業は、司法修習でやっていたことと同じと言えば同じであるが、大きく違うと言えば大きく違う。今後、ロースクール卒弁護士の真価（進化？）が問われていくと思うので、悪い前評判を払拭できるように頑張りたい。

私は、弁護士は自分をアピールすることも必要だと感じている。仕事に飲み込まれないように、自分を叫んでいく必要があると思っている。また、いろいろな意味で、仲間を増やしていきたい。